

令和元年度 第3回 宇都宮市民大学運営協議会 会議録

- 1 開催日時 令和元年11月29日(金) 午後3時から
2 開催場所 人材かがやきセンター研修室(中央生涯学習センター5階)

3 出席委員

川本 清 会長 島田 繁雄 副会長 阿部 好子 委員
江田 壮一 委員 大山 真一 委員 小針 協子 委員
野中 正知 委員 長谷川 京子 委員

(以上8名)

4 欠席委員

川島 育郎 委員 小林 治郎 委員

(以上2名)

5 出席職員

生涯学習課長	増渕 重子
家庭教育・地域人材グループ係長	藤田 直樹
家庭教育・地域人材グループ総括	泉 志帆
家庭教育・地域人材グループ専任	高田 正枝
家庭教育・地域人材グループ主任主事	古谷 友理恵
家庭教育・地域人材グループ主事	佐藤 真莉乃
生涯学習課会計年度任用職員	長谷川 英子

- 6 公開・非公開の別 公開

- 7 傍聴者の数 0人

8 議事

- ・ 令和元年度宇都宮市民大学後期講座の実施状況について
- ・ 令和2年度宇都宮市民大学講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定について

9 その他

- ・ 令和2年度宇都宮市民大学開講式及び公開講座の実施について

(1) 令和元年度宇都宮市民大学後期講座の実施状況について

川本会長	委員の皆さんから意見・質問を伺いたいが、いかがか。
阿部委員	10月25日の公開講座につきましては、天候が悪かったにもかかわらず、たくさんの方にお集まりいただき感謝する。専門講座につきましても引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

(2) 令和2年度宇都宮市民大学講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定について

川本会長	この件について、選考委員会の委員長である島田委員から、なにかあるか。
島田委員	選考員会でプレゼンテーションの審査と審議により、資料のとおり順位を決定した。企画は12本あったが、残念ながら「今を読み解く現代社会コース」は1企画しかなく採用枠に入らなかった。選考委員会において、企画者であるVスタッフによるプレゼンテーションは、大変パワフルで熱心であった。感心する視点も多く、内容も良いものが多かったが、テーマを宇都宮以外で挙げてしまっているものが多かった印象がある。もう少し「宇都宮市民大学」という視点で講座を考えてもらえると良かった。企画では、様々な講師をお招きする予定をしているが、中には大変著名な方もおり、講師の調整がつくか不安な方もいた。講師の都合がつかず、最初の方針と大きく変わってしまうと、受講者の不満につながるのでは、という意見も出た。実施にあたっては、講師選定等も含め丁寧に進めてほしい。全体的には「宇都宮市民大学」の講座としてよくお考えになって取り組まれていると感じた。
事務局	資料の追加説明になるが、選考委員会において「今を読み解く現代社会コース」は1企画しか応募がなく、企画内容を重視して選考した結果、「今を読み解く現代社会コース」は選考企画がなかった。ついては、前期の文星芸術大学様や後期の作新大学様との連携講座における企画や事務局企画において、積極的に「今を読み解く現代社会コース」を実施する。また、本協議会の審議結果を受け、Vスタッフの企画については調整を行い、専門講座曜日別開催希望一覧（案）のとおり、前期に5講座、後期に4講座の枠で実施を考えている。
小針委員	「今を読み解く現代社会コース」は、皆さんの関心が集まりそうな分野に思えるが、他と比べて企画案が少ないのはなにか理由があ

大山委員	<p>るのか。</p> <p>私はVスタッフで長年企画に携わってきた。企画者側としては、選考委員会の審査を通すため、それ相応の需要や受講者の要望に応える企画として打ち出すということも重要と考え、歴史や文化などが人気の高い傾向にあるものをテーマに企画している。今回、後期専門講座「カラスを知る」の運営ボランティアをしているが、カラスは身近なものなので、受講生は非常に熱心に受講している。「今を読み解く現代社会コース」は年度によって応募企画数のばらつきがあり、今年度に関しては企画数が少なかったようだが、私も今後は心掛けて企画していきたい。</p>
長谷川委員	<p>資料を見て「今を読み解く現代社会コース」が1つしか企画がなかったのは非常に残念である。しかし、連携大学に企画していただけるという事で安心している。以前から「今を読み解く現代社会コース」には企画が上がってきても講座を実施すると人が集まりにくい傾向があったように思う。それでも重要なテーマであることから、人数が少なくとも引き続き実施していただきたい。</p>
小針委員	<p>以前にもあったが、学びたい意欲があり、ニーズがあるものを実施することは大事である。しかし、今の世の中の様子を見ると、あまり人気がなくとも市民に学んでほしいもの、例えば「少し先回りしてやってほしいもの」や「難しいもので少人数でもいいから食いついてほしいもの」に目を向けることは大切なことである。ぜひチャレンジしてほしい。また、定員以上の集客がある講座は、本当に素晴らしい。その強みを生かして、チャレンジ精神をもって企画していただきたい。</p>
大山委員	<p>市民大学とは別の生涯学習関連で、「空き家問題」の講座を企画した。空き家は切実な問題で、今後も増加が予想されており、受講者は非常に熱心に受講していた。今後狙っていきたいテーマではあるが、有料講座である市民大学において、行政が無料で行う講座より、有料にかなう魅力ある講座とする必要がある。我々ボランティアは、有料でも実施する価値があると受講生に納得してもらえるような内容になるよう企画している。</p>

川本会長	市民大学では防災や健康について取り上げており、今年も後期に実施するが、社会が変容していくということも視野に入れて、ボランティアスタッフの皆さんと協力しつつ実施していただきたい。
事務局	各コースをバランスよく採用していきたいが、Vスタッフの企画の力の入れどころで、コース毎の応募企画数が変わってきてしまうこともあり、今回の選考は難しかった。昨年は「今を読み解く現代社会コース」に力を入れて募集をした結果、前期後期で各2企画実施、年間12企画のところ4企画実施することができた。「今を読み解く現代社会コース」を企画するにあたっては、時代背景や流行などの変化が早く、企画が難しいことや、講師の選考など課題が多く、企画者が躊躇しやすいコースである。企画者は受講者の満足度も一つの指数として考えていることから、事務局としても配慮して「今を読み解く現代社会コース」の講座を企画する意欲を高められる工夫をして来年の募集に臨みたい。
江田委員	前回の合同開講式・公開講座においても、60・70代の受講者が多く、そこから考えても歴史などの「暮らしを彩る教養講座」の分野に関心が集まるのは仕方がないと感じている。しかし、コースを3つに分けているということは意味があることから、1つでも実施していくことを心掛けていかなければならない。もうひとつは、選択肢をおくということも大切なので、受講者が少ないことを考えると企画できなくなるのではと考える。
野中委員	とちぎ未来づくり財団でも、事業として栃木県埋蔵センターで考古学セミナーを行っている。1講座500円で実施しているが、歴史が好きな方が多く、発掘現場の方法などの講座はものすごい人数が集まるので、市民大学の結果を見ても納得がいくところである。しかし先ほど、大山委員がおっしゃっていた「今を読み解く現代社会コース」に関しては、行政がやるところより上のものが求められると思う。どうしても現代の様々な問題には「今を読み解く現代社会コース」での学びが生きると思う。
事務局	質問だが、資料の各講座の曜日別開催希望時期の星印は、前期後期どちらでも実施が可能ということか。 コースや曜日、時間帯のバランスも含め全体の調整が必要なため、また、場合によっては時期も含め変更が見込まれるため、変更が可能

	<p>な企画は星印で記載している。</p>
野中委員	資料をみると、毎年同じ企画者が選考されているのか。
事務局	講座企画・運営ボランティアは、養成講座を修了した方に、毎年登録を確認し、宇都宮市の生涯学習に関わる企画とし、宇都宮市民大学の企画だけではなく、市生涯学習センターの講座企画や運営のボランティアなどを行っている。養成講座では、1回2時間を8回にわたり、生涯学習に関わる知識や企画立案方法を学び、演習として講座の企画を立て、その講座を広報やチラシで広く市民の方へ周知し、当日の講座運営まで行った方を修了生としてボランティアスタッフとして認定している。
	<p>企画の募集は、ボランティアに対し、毎年8月に企画募集説明会を実施し、宇都宮市民大学以外の宇都宮市の生涯学習センターや人材かがやきセンター主催講座の企画も含め、説明を行っている。活動拠点となる場所やエリアが決まっているグループが多いことから偏りが出てしまっている。昨年度の講座を見ると分かるように、市民大学の企画も活動が市の中心部である同じグループが多くなっている。</p>
野中委員	宙など、企画のグループは任意のグループなのか。
事務局	任意のグループである。
長谷川委員	グループと個人と併せてどのくらいのボランティアスタッフが登録されているのか。
事務局	今年度は、講座企画・運営ボランティアの方登録者数は60数名になる。グループは、必ずひとつに所属にしなければいけないということではなく、複数グループに加入している方もいれば、グループに属していないという方もいる。また、企画立案から運営まで参加される方もいれば、運営だけされる方もいる。
島田委員	<p>補足になるが、企画選考委員会の際「市民大学の講座終了後に、同じ講座を受講した歴史好きが集まり、講師を定期的に招き、マイクロバスを借りて現地見学を行う」など、市民大学という枠を超えて自主活動をしている修了生もいると聞いた。野中委員もおっしゃっていたように、すべて自費での活動になるが、歴史好きが集まりやすいようだ。このような発展性を見ると、事務局には「今を読み解く現代社会コース」もぜひ頑張っていたいただきたいと思う。</p>
川本会長	「令和2年度 宇都宮市民大学講座企画・運営ボランティアスタ

（一同） （異議の声なし）

川本会長 ッフ企画講座の決定について」承認いただきたいがどうか。

大山委員 そのほかに何かご意見等はあるか。

私は、講座企画運営ボランティアスタッフとしてグループで活動をしていましたが、解散になり個人で活動している。市民大学の企画を始めてから、成功例を重ねていくと「さあ次はどんなテーマで企画しようか」という気になる。企画者としても、場数を踏むことによって、築かれた実績が経験の強みとして市民大学の各講座に表れていると思う。新しい方が取り組まれることはもちろん良いことだが、修練されたものが反映されて現在に至っている。

（3）令和2年度宇都宮市民大学開講式及び公開講座の実施について

川本会長 それでは、この内容についてなにか御意見・御質問ありましたら
願います。

大山委員 先日、宇都宮市出身でロシア語の著名な研究者である亀山郁夫さ
んの講座に出席してきた。「ショスタコーヴィチとドストエフスキー
」という講演で、約300人が参加していた。非常に興味深い内
容で、御自身のことやショスタコーヴィチとドストエフスキーにつ
いて分かりやすく教えていただいた。現在は名古屋大学の学長をし
ていらっしゃるため距離的な問題があるが、宇都宮市にゆかりのあ
る方である。今回、講師は候補に挙がっている方の中から決まるか
もしれないが、今後の講座講師としてお考えいただきたい。

川本会長 委員の皆様も、公開講座講師としてどなたか講師候補がいらっし
ゃったら、事務局へ随時ご意見いただきたい。

事務局 講師はお忙しい方も多く、日程の調整や会場の確保に関しては1
年前からの準備が必要である。しかし、委員の皆様へご報告ができ
る機会が多くないことから、川本会長へ随時、進捗を報告させてい
ただきながら、事務局調整で進めさせていただきたい。

川本会長 今、お話にありましたとおり、事務局調整とさせていただいてよろ
しいか。

（一同） （異議の声なし）

川本会長 事務局調整で進めていただきたい。

小針委員 野中委員の話にあったが、セミナー等では集客が悪く、20人の
受講生を集めるのですら大変である。募集290人で、受講決定が

300人を超えるというのはとても素晴らしいことだと思う。秘訣はどこにあるのだろうか。宇都宮市民の意識が高いのか、企画選考の段階で厳しく審査しているのか、様々な要因があると思うのだが、いかがか。

島田委員

選考委員会では、審査基準を設け、各委員が点数を付けて審査をしている。特に「市民が何を求めているか」に焦点を置き、企画者へ質問等を行い、講座を運営していくなかで受講生がどのような発展をしていく可能性があるかについても審議している。ある程度バランスをとった形で質問をしていることから、全体的には厳しい審査となっている。よって、「今を読み解く現代社会コース」についても採用したい気持ちはあったが、審査の基準から考えると、全体よりも点数が下がってしまった部分があったため、採用には至らなかった。

事務局

以上で、本日の議題は、すべて終了とする。